りぶまぐ！

vol.2.5

著者名

目次

1　森見登美彦／蔭山俊介
2　中勘助／佐々木優
3　J・K・ローリング／小川祐佳

世界にたった
二人の、
仲よしの
お友だち
中勘助

光瞬く京都を駆けろ！

森見登美彦

EXPECTO
PATRONUM!

J.K.ローリング

森見登美彦が好きだ。

そうかと思えば『きつねのはなし』などに見られるように昏く恐ろしい作品、世界観を見事に描く。

更に、作品の中に煌びやかな表と恐ろしい裏、さらには間抜けさまでもが同居しているものまである。

彼の描く京都は楽しく、面白く、こわく、哀しく、美しい。狸がふざけている一方、地獄で亡者がすり潰され、わけのわからんドッキリが展開されるのと同時に、同じ一日に閉じ込められた者がさまよい、一人の大学生が理想を追い求め、神隠しが起こり、「ええじゃないか」が局地的に流行し、巨大な陰謀が動いているかと思えば、とんでもなくどうでもいいワガママが事態を揺るがすなど、読み始めなければ、否々読み進めている最中でもこの小説はどこに向かうのか予想不可能なことが多々ある。

まさに「森見登美彦ワールド」であり、めくるめく絢爛混沌世界である。この中で様々な物達（人外を含む）が恋をしたり、死者を追ったり、鍋にされたり、永遠に現世と隔絶されたりすることで個性的な物語がいくつも紡がれることとなるのである。

その世界で光と闇と愛と命と幻惑と痛快の激流に呑み込まれてみることを是非お勧めする。爆笑の後に涙するその揺さぶりに病みつきになること間違いなしだ。

ちなみにアニメの方もお勧めなので是非ともご覧いただきたい。

奈良県生駒市出身、京都大学卒業の小説家。
代表作の『四畳半神話大系』『有頂天家族』『夜は短し歩けよ乙女』は映像化もされている。
基本的に風流溢れる京都を舞台にしており、ファンタジーか恋愛のジャンルに属する小説が多い。
ただ、デビュー作の『太陽の塔』や前述の『四畳半神話大系』などははじめの部分だけ読むとそれらのジャンルとは程遠い印象を受ける。なぜならひねくれた大学生が長文であーだこーだ語り始めるからだ。一見難しいことを言っているようで、無駄に難解にして必死に賢い振りをしているだけで本質は阿保、そのような人物描写が憎らしい程に上手い。
それ以外の作品でもどこか間の抜けた（つまり阿保な）ように見える者達が登場し、やはり間の抜けた物語が展開していくことが多い。この時点で笑いながら読める面白い小説ではあるが、どちらかというとコメディでは？と思ってしまっても無理はない。
しかし彼の描く京都が幻想的であるという事は彼の作品の映像化がアニメで行われているという事実が証明している。前述の間抜けの中には空を飛ぶような男や、化ける狸、天狗、ちょっとした神様などが含まれ、それらが好き放題跳梁跋扈することで、魅惑的なこの世ならぬ光景が展開されることが多い（故に実写再現が困難）。何の脈絡もないファンタジーが展開され、その脈絡の無さがまた間抜けさを感じさせることも、綺麗な光景に見えることもある。

中勘助が好きだ。

この記事を読んで下さっているあなたは、この作家をご存知だろうか。

『銀の匙』といえば、見覚えのある方が多いかもしれない。中勘助は一八八五年、東京市神田区に五男として生まれた。幼少期は虚弱で、繊細な子どもであった。裕福な家庭に育ち、厳格に育てられたが思春期にはその方針に反発する。東京帝国大学をトップの成績で卒業した兄とは対照的に、彼は学業から遠ざかっていった。二七歳（一九一二年）で作家生活を決意し、処女作であり彼の出世作となる『銀の匙』を執筆する。

『たくさんのおもちゃのなかでいちばんだいじだったのは表の溝から拾いあげた黒ぬりの土製の子犬で、その顔がなんとなく私にやさしいもののように思われた。……それからあのぶきっちょな丑紅の牛も大切であった。これらは世界にたった二人の仲よしのお友だちである。』（本文より）

この文を読んで「好きだ」と思った方は、ぜひ『銀の匙』を読んでみて欲しい。

おもちゃを「仲よしのお友だち」として大切にする主人公の繊細な心が、文字を通してこまやかに伝わってくる。これほど澄み切った心の通い合いのできる作品はほかにあるだろうか。

半自伝的小説であるこの『銀の匙』は、作者の幼少期の暮らしや体験をもとに綴られる。作者の鋭く混じり気のない観察眼が、みずみずしい言葉となって読者に伝わるのだ。

J・K・ローリングが好きだ。

晴れた空とは裏腹に心はどんよりと沈んだ小学五年生の春の日。何気なく図書館に行った私は、何気なく一冊の本を手に取った。いつもそこにあったはずなのに、いつも気にしてこなかった本。とても有名なのに、一度も読んだことがない本。

『ハリー・ポッターと賢者の石』

一ページ目をめくってすぐにわかった。この本は面白い、と。

それからは時間が過ぎるのにも構わずに夢中で読み続けた。

シリーズを読み終わると、彼女が出している魔法界の教科書や魔法界の昔話の本を読んだりした。

彼女へのインタビューである『ハリー・ポッター裏話』も読んだ。

私は現在も根っからのイギリス好きである。幼いころに夢中になった『不思議の国のアリス』や『ピーターラビット』の影響もあるかも知れない。

しかし、何より決定的だったのは『ハリー・ポッター』シリーズだった。寄宿舎での学園生活、初めて聞く食べ物（実在するもの、魔法界のもの問わず）・・・。すべてに夢中になった。

現実と魔法が絶妙に絡み合って生まれたあの世界。

それがあの人の頭の中で作られたのだというのが信じられない！

その後も折あるごとに読み返し続けた我が家の『ハリー・ポッター』シリーズ計十一冊（図書館での運命の出会いののち、クリスマスプレゼントとして我が家にやってきた）は揃いも揃ってへろへろにくたびれている。

なかでも、第三巻『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』は十一歳の私にもっとも影響を与えた本といっても過言ではない。相手の一番怖いと思っているものに姿を変える「ボガート」、幸せという感情を吸い取ってしまう「吸魂鬼（ディメンター）」。これらの魔法生物は、現実界にも姿を変えて住み着いている。どうしようもなく悲しくて、怖くて、何もできないと思ったとき、それまではなにもできなかった。でも、あの本を読んでからは、ハリーや仲間たちの姿を思い出して、恐怖を笑い飛ばしたり、悲しみに立ち向かっていけるような気がした。あれから何度心の中で「守護霊の呪文」を唱えただろう。

あとはルーピン先生。先生は茶目っ気があって、生徒のよき理解者で、しかも、授業は実技中心。生徒たちが尊敬し、授業に夢中にならないはずがない。こんな先生に教わってみたい、いないなら自分がそうなるか、そんな先生が生まれる手助けをしたい！思えばこの熱情が心の奥底に流れていて、私はここまでやってきたのかもしれない。

ハリー・ポッターが大好き！その好きにもいろいろな形があると思う。私の稚拙な文章では、「魅力を伝えきれていない」「自分の読み方と違う」そう思われる方がいるのも無理はない。私は『ハリー・ポッター』もそれ以外の彼女の作品も、インタビューに表れる彼女の人柄も大好きだ。これを読んでいるあなたに「開心術」を使ってこの心をのぞいてほしい。そうすれば安っぽい言葉なんかよりももっと正確に伝えられるのに！

それに、『ハリー・ポッター』以外の彼女の活躍も見てほしい。

二〇一三年には大人向けとして『カジュアル・ベイカンシー　突然の空席』を発表した。『ハリー・ポッター』シリーズとはかなり雰囲気も題材も異なるが、「読ませる」パワー、プロットのうまさは健在である。

なお、あまり知られていないが、ロバート・ガルブレイスという別名義でいくつかミステリー小説も発表している。（なかには日本語に翻訳されていない作品もある。英語に自信のある方は是非！）

現在彼女は本を飛び出し、様々な分野に挑戦し続けている。およそ百年前の魔法界のことを描いた映画「ファンタスティック・ビースト」も人気を博しているが、これは彼女の脚本家デビューを飾ることとなった。

光をあてる角度が変われば輝きを変える宝石のように、様々な輝きを放つローリング。処女作の大ヒットにも負けず、新しい世界を切り開き続けるその活躍を、これからもずっと追いかけ続けていきたい。

十一歳のあの日、そう、ハリーが自分が魔法使いと知ってから世界が大きく変わったように、私もあの日からずっと、魔法にかけられてしまっているのだから。

☆早稲田大学には『ハリー・ポッター』シリーズ、『カジュアル・ベイカンシー　突然の空席』、『ハリー・ポッター裏話』そのほか、彼女が影響を受けたと語る作品が多数所蔵されている。中央図書館以外にもたくさんあるので、ぜひ探してみてほしい。☆

図書資料情報

森見登美彦

・『太陽の塔』
　中央 2F 一般図書　一般・新潮文庫 も-29-1
・『夜は短し歩けよ乙女』
　戸山 3F 学習図書　913.6 モ019
・『有頂天家族』
　戸山 3F 学習図書　913.6 モ024　01

中勘助

・『銀の匙』
　中央 2F 一般図書　一般・新潮文庫 な-95-1
　戸山 1F 学習(文庫)　080 B001　緑051-1
　政経学読(文庫)　IB 31　051-1
　教育学読 一般和書　080 4　51-1

J.K.ローリング

・『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』
　中央 2F 一般図書　933 ロ
・『カジュアル・ベイカンシー：突然の空席』
　戸山 1F 学習(文庫)　080 B015　49
・『ハリー・ポッター裏話』
　戸山 3F 学習図書　934 078

※掲載した配架場所は一部です。詳しくはWINEをご覧下さい。

LIVSの活動

・わせとしょ探検隊！
～発掘！早稲田のBBN～

あの人気Web連載企画が帰ってくる！様々なテーマのもとで、図書館の利用方法や魅力をお伝えします。
12月下旬から随時公開予定、お楽しみに！
https://www.waseda.jp/library/news/2016/12/15/2679/

・りぶまぐ！

2016年以降、定期刊行している『りぶまぐ！』
LIVSスタッフおすすめの本から、図書館の魅力まで、楽しい記事を掲載しています。2018年春にはvol 3が発行されます。ぜひお手に取ってみてください！

・Library Gifts あなたに贈る本

この冬は、LIVSメンバーが大切に思う人に贈りたい本を厳選して中央図書館に展示致します。
来年度の春には人気企画、「一行展示」を再び開催。
LIVSメンバーが中央図書館をまたまたジャックし、皆さまの心にエールを送ります！！



Presented by
Waseda University Library Volunteer Staff “LIVS”

『りぶまぐ！』vol.2.5　撫子号　2017年12月15日発行
編集・発行：早稲田大学図書館・ボランティアスタッフLIVS
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学中央図書館 利用者支援課
TEL：03-5286-1659　　http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/livs/

※本誌掲載の写真、記事、図版等を無断で転載・模写することを禁じます

本PDFは、執筆者の許諾のうえ冊子版を電子化し、
「早稲田大学リポジトリ」より公開するものです。
無断転載・転用を禁じます。
早稲田大学図書館